

2020/11/4

女の多い鹿児島で
性別に関わらず輝く
前例を創る

～くわど宝を全国へ～



青木りゅうこ

K T S鹿児島テレビに
(フジ系、8チャンネル)
34年勤務しました...



- 福岡・北九州市出身
- 両親は僧侶 社会福祉法人運営
- 3姉妹の長女
- 福岡市の仏教系の女子校
→成城大学
- 1986年入社 アナウンサーに

デビュー（初鳴き）は 男女雇用機会均等法がスタートした

入社式直後の1986年 4月1日



1986年 均等法元年 入社だが...

最初に上司に言われた言葉に衝撃を覚える

「男が作ったニュースを
女がダメにするのは許せない」



- フルネームを覚えてもらい 体当たり
 - 土日を活用した取材で鹿児島を学ぶ
 - 印象UP (衣装協力探す) & 特集連発 (体当たり型)
- 鹿児島の女子アナの“従来のイメージを超える”
視聴率 2桁にUP テレビは視聴率主義



入社4年目の1990年 一念発起、番組企画

着目 「鹿児島は、全国一女性の割合が多い」

当時、鹿児島県で最も背が高い 鹿児島商工会議所ビル完成

電車通りに面した1階 JAL× KTS スタジオ設備導入

→公開生放送の企画案 KTS 局内で募集

「女が多い鹿児島で

女たちが本当に見たい番組を

女性社員全員をスタッフにして作りましょう」

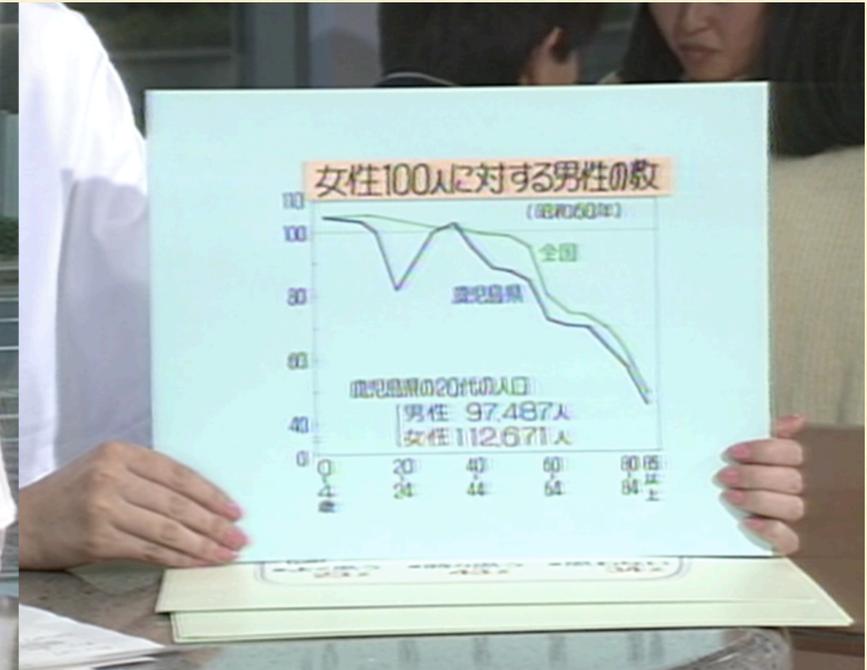
絶対にウケるからと上司に迫る

「りゅうこさんはブルドーザー」

番組制作スタッフ

- プロデューサー...全体をオーガナイズ,お金の管理
- ディレクター ...番組制作 (女性D 1人→2人体制に)
- MC(キャスター) (初:女性2人)
- カメラマン ●照明 ●音声
- FD (初:女性)
- アシスタント AD (初:女性)
- スタイリスト ●ヘアメイク
- 女性社員全員で 毎週水曜にランチタイム企画会議

1990年 ナマ・イキVOICEスタート



1996年 自分の出産も番組に



一男一女に恵まれ
仕事と育児に奮闘
5年ぐらいで辞める女子アナの
前例を毎年塗り替える
「性差医療の特別番組」制作

すると異動になり...
制作部ディレクター



企画事業部
(何と2カ月でまた異動)



報道記者

「女として母としての視点を
報道に生かそう」
均等法1期生のイジ



2007年 種子島の危機



**ギリギリの状態で出産を支える状況を
包み隠さず産婦人科医と麻酔科医が激白**

「あす事故が起きるかもしれない」

「きょう起きるかもしれない」

島民の表情が変わっていく様子が見える

「島の周産期医療を考える会」も発足、仲間に加わる

離島に出産について初めて身近に感じる



離島には女性問題をクローズアップする

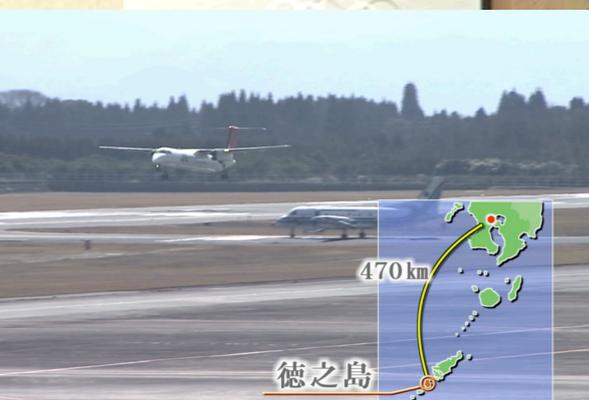
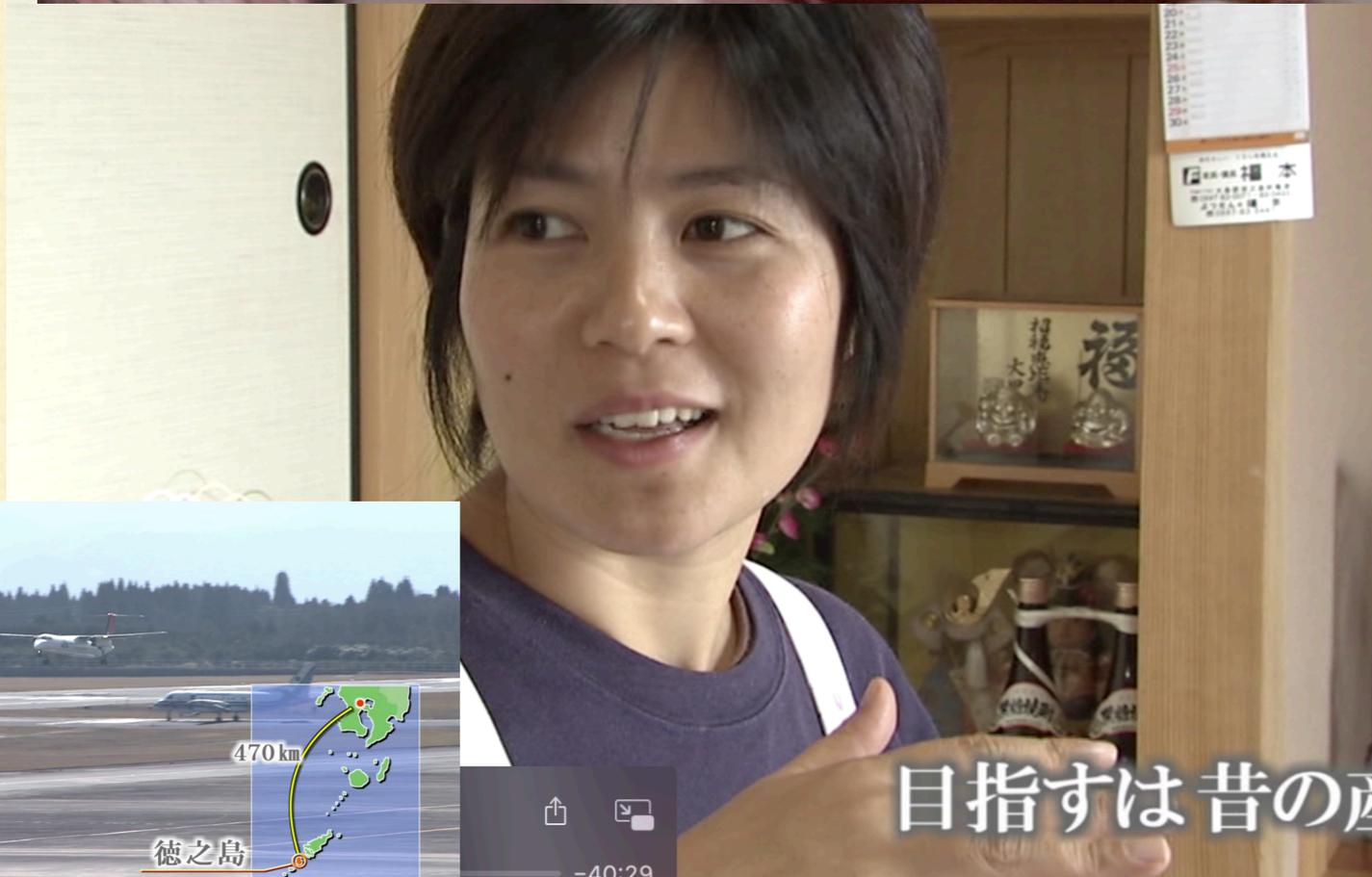
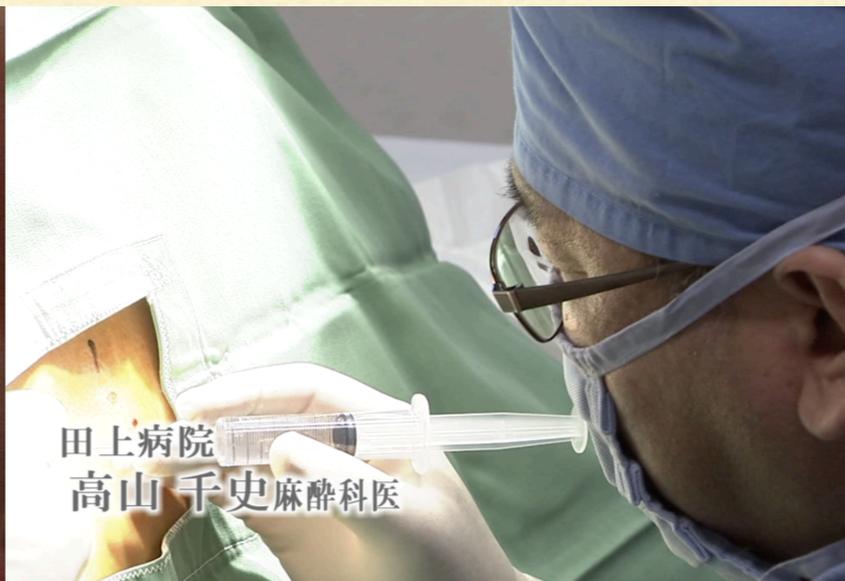
政治家が少ない（女性議員ゼロの島が多い）

「ローカルメディアの重要な役割 番組で発信しよう」

「住む場所で 命の格差があってはならない」

離島の「出産」にフォーカス

～南の島の産声を守れ～ 3本制作 民放祭で受賞～



ローカルの報道



「おらがマスコミ」



人生100年「80歳まで働きたい」

今年、2月末で退職 次のステージへ

これまでの活動をまとめて 全国で困る地域のためにも
鹿児島県などでの取り組みを発信しようと
子宮頸がんワクチン被害者シンポジウムの取材で出会った
ゆきさんに相談 大学院へ



現・鹿児島市長も
「頑張っってね」と...



退職の日アナウンサーの後輩たちと

ナマ・イキVOICEは今年30周年 退職したのに、企画者であるため番組に出続ける



視聴者らを動かし名付けた
テンパーク（中央公園）や
テンパーク通りなど
街づくりに対して最注目

今年7月 鹿児島県知事選に出馬要請…「コロナの影響!?!」



「市民が擁立した初の女性知事候補」 前例なき擁立
県内の女性議員や若者（学生）が擁立

友人やKTS時代（ナマ・イキVOICE）の仲間も全面協力



鹿児島出身の主治医の声かけ→WIN WIN（赤松政経塾）が支援

WIN WIN 代表は **均等法の母：赤松良子さん** 何というご縁！

均等法1期生のイジ 保育園などもバックアップ

鹿児島県知事選には男女7人が立候補

県知事選挙



武田 信弘(66)

< 無所属・新 >



横山 富美子(73)

< 無所属・新 >



青木 隆子(57)

< 無所属・新 >



三反園 訓(62)

< 無所属・現 >



伊藤 祐一郎(72)

< 無所属・前 >



塩田 康一(54)

< 無所属・新 >



有川 博幸(61)

< 無所属・新 >



誰ひとり
取り残さない
鹿児島に

57歳
学生

あおき
鹿児島県知事候補
青木りゆうこ

指示責任者：谷口 潔太郎 (19歳) 〒890-0055 鹿児島県鹿児島市上野田町 36-42 305 印刷所：ひまわり印刷所 〒890-0014 鹿児島県鹿児島市荒田 1-19-19 2F

離島の仲間も全面協力 前例のない「離島政策を訴える知事候補」

第24247号 2020年(令和2年)7月1日 水曜日 南 海 日 報 新 聞 1944年(昭和19年)5月19日第3種郵便物認可 月ごめ購読料1888円(税込) (日刊)

2020年(令和2年) 7月1日(水) 旧暦5月11日・先負 発行所 日本新聞協会加盟 南 海 日 報 新 聞 社 〒894-8601 鹿児島県奄美市名瀬長浜町10番3号 電話 0997局 総合・総務局 53-2127 フاكス 52-2354 編集局 53-2127 フاكス 53-6636 E-Mail nankai@nnpb.synapse.ne.jp 営業局 53-2126 フاكス 53-6431 E-Mail nankai@bronze.ocn.ne.jp 販売部 53-2125 フاكス 53-1475 http://www.nankai-nn.com/ ©南海日日新聞社 2020年

さらさらに2候補が奄美入り

2020 知事選 鹿児島

来月12日に投票される鹿児島県知事選に立候補した新人の青木隆子候補(57)と現職の三反園訓候補(62)が30日、告示後初めて奄美入りした。青木候補は徳之島、三反園候補は奄美大島をそれぞれ巡り街頭から支持を訴えた。

青木氏「島の好例を全国に」

青木候補は空路来島し、挙力でもマイクを握って徳之島一円を遊説。島内3支庁をめぐり、夕方には海沿いで街頭演説を行い、連日、奄美大島へ向かった。

街頭演説で青木候補は、テレビアナウンサー時代に周産期医療の充実などを訴えた青木候補=30日、徳之島町亀津

不足で揺れた徳之島を取材した思いを振り返り「島のためにもたちのために立ち上がった。大切な命と暮らし。誰一人取り残さない」と力を込めた。

「コロナ禍の出現について『女性をサポートする仕組みが必要』と周産期医療の充実を訴え、情報通信技術を活用し、かかりつけ助産師システムの実現に意欲を見せた。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う子どもの教育政策として、徳之島の小学校で実践するオンライン教育を取り上げ「徳之島の事例をコロナ収束後のモデルとして構築し、全国に発信していく」と訴えた。(徳之島総局)

三反園氏「一生懸命汗をかき」

三反園候補は空路来島し、支庁をめぐり、奄美大島と各地の街頭でマイクを握り「また1期4年。これを語り、県政継続を訴えた。

演説で三反園候補は、現職知事として新型コロナウイルスに対する入院・医療体制の整備や離島の水際対策など実績を強調。「何かがあれば、困った人がいれば、飛んで行ってその人の立場に立つてその人のための政策をやる、それが本場の政治だ」と語った。

農林水産物や加工品の輸送費支援など奄美への振興策も示しながら「奄美の人のためになるような政策を、皆さんと心をつなげて取り組んでいく。そのために一生懸命汗をかきたい。絶対に真つすぐに努力していきたい。またやりたいことがあるんです。力を貸してください」と訴えた。

大切な人へ送ってみませんか?

月刊・奄美

年間購読料 4,000円(送料・消費税別)

きょうの天気

鹿児島県 梅雨前線や湿った空気がおおむね雨となり雷を伴って降る所がある。熱中症に注意。波が高い所がある。

候補者インタビュー 2020 かがしま知事選 中



三反園 訓氏 (62)



青木 隆子氏 (57)

「知事チーム」の発足掲げる

7人目、青木氏が立候補表明

鹿児島県知事選

【鹿児島総局】今月25日告示の県知事選で、元KTS鹿児島テレビアナウンサーの青木隆子氏(57)が10日、無所属で立候補する意向を表明した。鹿児島市の県庁で記者会見した青木氏は「県民のアイデアや経験を県政に反映させ、県民もメンバーとする『知事チーム』を発足させる」と述べた。県知事選への立候補表明は7人目。指留中の男性も11日に表明を予定しており、8人での選挙戦も想定される。

青木氏は福岡県出身で1986年に成城大学を卒業。KTSで25年勤務し、2017年退職後、奄美大島に転居し、周産期医療や福祉などの取材にも携わった。今年9月に退職し、現在、国際医療福祉大学大学院の医療福祉ジャーナリズム修士課程に在学中。

県知事選では当初、反原発などを掲げる市議員が立候補する予定だったが、青木氏は「市民団体が擁立を検討していたが、川内原発3号機増設に対する考えの違いから見送られた」と述べた。

青木氏は会見で「まずはアフトコロコロナ対策が重要。命と暮らしを守り、今を生きていくための県政を進めたい」と語った。

青木氏「元KTS」が立候補会見

「県民の声聞き、生活者視点で」

【鹿児島県鹿児島市】元鹿児島テレビアナウンサーの青木隆子氏が10日、鹿児島市で記者会見し、無所属で立候補する意向を表明した。青木氏は「県民の声を聞き、生活者視点で」と述べた。

青木氏は「元KTSとして、報道現場で培った取材力や発信力を活かして、県政の課題を明らかにし、県民の声を届けていきたい」と述べた。

青木氏は「元KTSとして、報道現場で培った取材力や発信力を活かして、県政の課題を明らかにし、県民の声を届けていきたい」と述べた。

「ブルドーザー」院生

走り続ける現場主義

鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生は、今夏、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。このチームは、鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生が、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。このチームは、鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生が、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。

「ブルドーザー」院生は、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。このチームは、鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生が、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。

鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生は、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。このチームは、鹿児島県立初の中高一貫校「ブルドーザー」院生が、今年度、都道府県大会で優勝し、バスツアーを送っている。

結果は惨敗でしたが...



**約6万票を獲得
支持してくれた
医療&福祉関係者や女性たちの励みに**

南北600キロ 鹿児島県は広い!

26の有人離島含めポスターを貼る

費用は いくら?? ※印刷代は除く



→ **約300万円**

供託金も300万円

**女性が挑戦するには
大きすぎる賭け**

地元紙など

初めて聞く話

「もっと訴えて」



徳之島での
ポスター貼り

微力かもしれないが
今後子育て支援や
地域の医療・福祉に
力を尽くしたい

声なき声を
地域で汲み上げていく重要性に
改めて目覚めた



▲今回のごしまスマイルベイビーニュースの内容が音声でお楽しみいただけます。ぜひお聞かせください！

「食物アレルギー」と「スキンケア」に関係が!?

今回は、ママたちが気になる「子供のアレルギー」についてお伝えします。

今や国民の3人に1人から、2人に1人と増加しているといわれる「アレルギー」。アレルギー疾患は、乳幼児期から小児期にかけて発症することが多く、重症化を防ぐには早期発見・早期治療が必要持っているとされています。

そこで、アレルギーの専門医で、鹿児島市の「あおぞら小児科」院長・立元千帆ドクターに話を聞きました。なんと「食物アレルギー」と「スキンケア」に関係あることが、医学的にも分かっているということです。



あおぞら小児科
立元千帆 院長

アレルギーとしては、食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎が主なものですが、食物アレルギーに関して言えば、アレルギーの原因『抗原』が、赤ちゃんの時に皮膚から侵入した抗原に対してアレルギーが成立すると言われています。このため『皮膚から抗原が入ってくる時期に、皮膚を守ることが重要』と今、世界的に研究が行われています。

当院では予防接種の時に皮膚を見て、皮膚が荒れていそうなお子さんの場合、その時からスキンケアを始めてもらっています。保湿剤やステロイド軟こうを使って皮膚をキレイに保つ。そうすると食物アレルギーになる子供は、かなり少ない印象があります。「早い段階でスキンケアを一生懸命することが、子供のアレルギーの発症を抑えることにつながるのではと、考えています」

皮膚の状態と食物アレルギーは一見別のことに思えますが、皮膚のバリアが壊れると、そこから食べ物の抗原が侵入してアレルギーを引き起こす可能性があるのです。食物アレルギーを予防するには、まず赤ちゃんの肌をすこやかにすること。保湿などをしっかりする「スキンケア」が重要ということになります。アレルギーの原因として、以前は「妊娠中などのお母さんの食事の影響」も聞かれましたが、立元院長によりますと、今ではそれほど気にしなくていいということです。



あおぞら小児科
立元千帆 院長

「母親の食生活の影響については過去に色々な研究が行われ、妊娠中の食事や母乳期の母親の食事が、生まれてきた子供に大きく影響することはないということが証明されています。ひと昔前は、母乳から色々な物質が出るからと、母親の食事制限をした時期もありましたが、そういうことも徐々にされなくなってきました」

Q.むしろ、生まれた後のケアが大切？

「そうですね。食物アレルギーに関していえば、生後1か月以内のケアが大切だと思います」

離島はもちろん地域の努力を全国へ

奄美大島でママと産科医がオンラインでつながる診療開始

奄美市にある名瀬徳洲会病院・産婦人科では、モバイルを活用した**オンライン診療**が始まっています。今回、全国的に臨時的な措置としてオンライン診療の適用範囲が大幅に拡大されました。妊婦検診もその一つです。実はこの病院では8年ほど前から、**モバイル型分娩監視装置iCTG**を活用し、病院から遠く離れた地域に住む妊婦さんの状況をオンラインで見守る取り組みを行ってきました。



iCTG メロディ・インターナショナル社製

鹿児島に出会い、人に出会い、思いに出会い

全ては「ご縁」でここまで来ました

鹿児島県民（約160万人）のうち

男女を見ると約10万人以上女性の方が多い

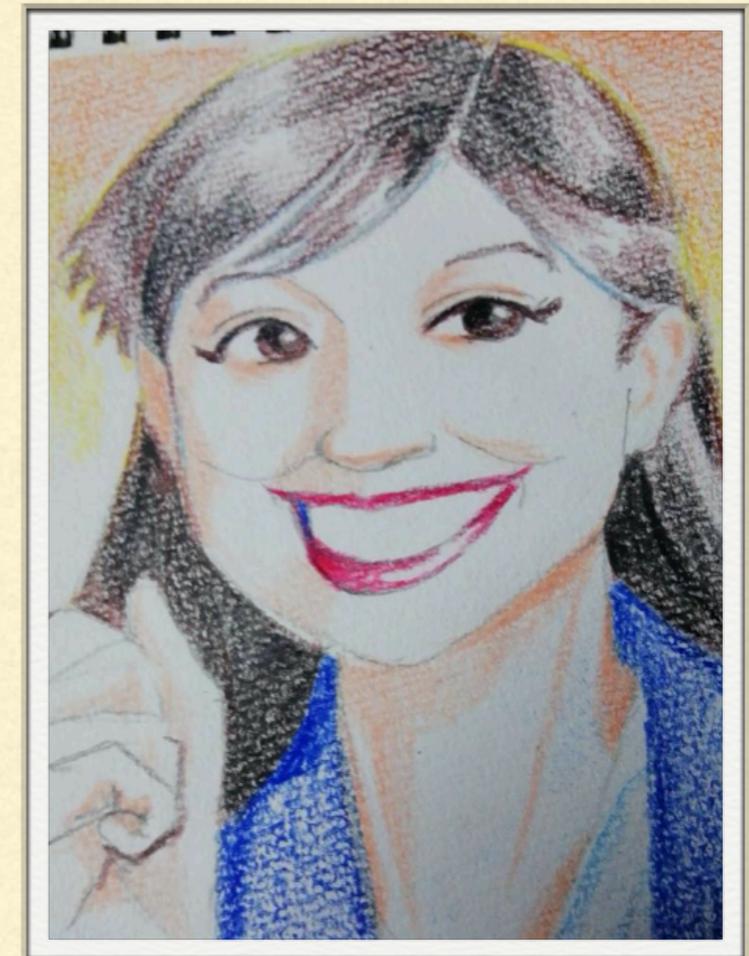
性別、年齢、障がいの有無、国籍、宗教に

関係なく声をあげられ

どこに住んでいても命に格差のない地域に！！

モットーの「正直」「愛」を大切に 進み続けます

ご清聴ありがとうございました。



青木 りゅうこ